

第3回吉田高校学校運営協議会

日 時 令和6年2月27日（火）
場 所 吉田高校朝日子ホール
開 会 13時30分

次 第

司会 野澤 俊英

- 1 開会の言葉（司会）
- 2 学校長あいさつ
- 3 学校運営協議会会長あいさつ
- 4 報告事項
 - (1) 部活動関係（関東大会、全国大会）について（生徒会主任 萱沼より）
 - (2) 富士山学（総合的な探究の時間）について
 - ① 2年生研究発表会（総合研修主任 村松より）
 - ② 1年生スペシャルチームの取組（教頭 野澤より）
 - (3) 四川省との交流会について（教頭 野澤より）
- 5 議事（議長 鶴田清司会長）
 - (1) 第2回学校評価アンケート及び令和5年度学校評価報告書について（教頭 野澤より）
 - (2) 校則の見直しについて（生徒主任 藤城より）
 - (3) 普通科高習熟度クラスについて（教務主任 小佐野より）
 - (4) 令和6年度学校運営基本方針の骨格について（校長 権太より）
 - (5) その他
- 6 連絡事項
 - (1) 令和6年度学校運営協議会委員について（教頭 野澤より）
 - (2) 令和6年度第1回学校運営協議会開催日について（教頭 野澤より）
4月13日（土）、14日（日）、20日（土）、21日（日）のいずれかを予定
 - (3) その他
- 7 閉会の言葉（司会）

令和5年度 吉田高等学校運営協議会委員

令和5年4月1日

鶴田 清司	都留文科大学名誉教授
井出 智子	元PTA役員 富士山みはらし専務取締役
中村 義仁	PTA役員
高村 明成	PTA役員
高保 裕樹	元吉田高等学校長 同窓生
正木 啓子	山梨大学学生サポートセンターカウンセリング・サポート室職員
堀内 淳	富士吉田市学校教育課長
栗井 晶子	公益財団法人栗井英朗環境財団理事長
萱沼 孝夫	富士吉田市商工会議所青年部直前会長
渡邊 太郎	渡小織物代表
村松 悟	富士見台中学校校長
梶原 正彦	河口湖南中学校校長
権太 正弘	吉田高等学校校長

4 報告事項

(1) 部活動関係 (関東大会、全国大会) について

○運動部

陸上部

燃ゆる感動かごしま国体 陸上競技

男子走り幅跳び少年B 太田倅陽 7m16 優勝

関東高等学校選抜新人陸上競技大会 男子三段跳 12m87 21位

やまなしスポーツ大賞 受賞

ウエイト部

関東高校選抜大会ウエイト競技

女子 55kg 級 渡邊志音 トータル 121kg 3位

男子 55kg 級 高草聡良 トータル 166kg 3位

スケート部

第73回全国高等学校スピードスケート競技選手権大会

男子 500m 遠山悠希 20位 雨宮匠 34位

男子 1000m 遠山悠希 35位 小佐野清十郎 36位

男子 1500m 倉澤伸太郎 15位 大森栄司 17位

男子 5000m 倉澤伸太郎 7位 大森栄司 12位

男子 10000m 小佐野清十郎 25位

国民スポーツ大会

少年男子 10000m 大森栄司 3位入賞

少年男子 5000m 倉澤伸太郎 8位入賞

少年男子 2000mリレー 山梨県 5位入賞

少年女子 2000mリレー 山梨県 7位入賞

令和5年度関東高等学校スケート大会

男子 500m 遠山悠希 6位 雨宮匠 8位

男子 1000m 遠山悠希 9位 小佐野清十郎 10位

男子 1500m 倉澤伸太郎 3位 大森栄司 4位

男子 5000m 倉澤伸太郎 4位 大森栄司 2位

男子 2000mリレー 遠山・雨宮・大森・倉澤 2位

女子 500m 湯山綾香 4位

女子 1000m 湯山綾香 4位

弓道部

東日本選手権弓道大会 男子団体 出場予定

ボート部

関東高等学校選抜ボート大会

男子シングルスカル 男子ダブルスカル

女子シングルスカル 女子ダブルスカル 出場

スキー部

関東高等学校スキー大会

アルペン回転・大回転 田巻潤之介 出場

○文化部

放送部

関東地区高校放送コンクール

ビデオメッセージ部門 吉田高校 優良賞

音楽部

関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト高校の部

出場予定 (3月)

囲碁将棋かるた部

第30回関東地区高等学校小倉百人一首かるた大会

女子団体戦 山梨県チーム9位 中村真綾 出場

(2) 富士山学（総合的な探究の時間）について

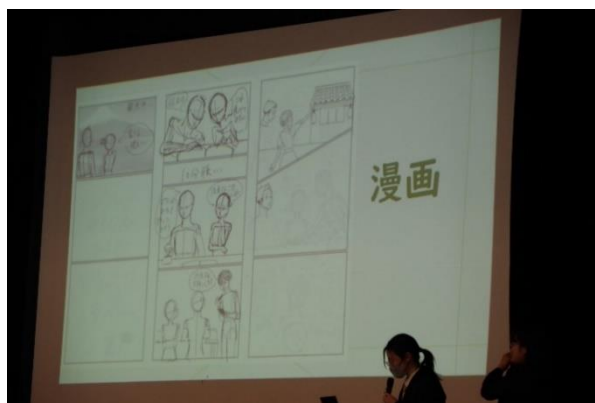
富士山学発表会

2年生：2月7日（水）13:55～15:35 開催



4月より取り組んできた「富士山学」の全体発表会が、2月7日(水)に本校体育館アリーナにて開催されました。地域の魅力を様々な角度から探ることによって、多くの人の想いと支えによって地域が成り立っていることに気づき、自分自身が地域の一員として現在の学びをどのように地域や社会に還元できるかを考えることがねらいです。

防災、子育て、文化、産業、観光・交通の5分野の中から研究テーマを設定し、2～6人のグループで探究活動を行ってきました。今回は分野別発表会で選ばれた代表チームによる発表を行いました。



どのグループも特色ある発表をしてくれました。また、発表を聞いていた生徒も熱心にメモをとっていました。吉高 GP の傾聴力・想像力・思考力をフル活用しながら活動していました。富士吉田市役所や富士吉田商工会議所青年部、そして学校運営協議会委員の皆様にもお越しいただき、講評をいただきました。

フードドライブの取組について発表した「子育てB」が最優秀チームに選ばれ、「富士吉田市 郷土愛醸成事業年度末報告会」にて発表することになりました。また、吉田のうどんについて探究したあるチームは、提案したメニューが「金蔵製麺」さんで、期間限定メニューとして採用されました。

次年度に向けて特に1年生は、2年生の発表を聞くことで良い勉強となったように思います。前述した5分野で本格的に探究活動に入っていきます。内容のみならずプレゼン方法においても、今年度の発表を上回るものにして欲しいと思います。



富士山学のために地域の皆様が関わって、吉高生に学びの場を提供してくださいました。関係各位の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも吉田高校の「富士山学」をよろしく願います。

山梨県四川省友好県省記念事業

四川省内江市第二中学校・吉田高等学校 オンライン交流会

趣旨：友好県省の関係にある山梨県と四川省との交流記念事業として、今後の友好関係に寄与する高校生による若い世代の交流会を開催する。

目的：山梨県と四川省の高校生がお互いの文化・伝統・生活・関心のある話題等について英語でディスカッションすることを通して、相互理解を促進するとともに、友好関係を一層深化、発展させることを目的とする。

日時：令和6年3月18日（月）16:00～17:10

（*参考 現地時間 15:00～16:10）

場所：吉田高等学校 視聴覚室

（Zoomでの交流会の際には、いくつかの特別教室に移動）

生徒参加者： 四川省内江市第二中学校 2年生生徒 44名

吉田高等学校 理数科 1年生生徒 40名

山梨側参加者：山梨県庁国際戦略グループ 主査 加藤 真理子さん

四川省受入職員 張 碩さん

山梨県庁高校教育課 指導主事 小関 祐介さん

吉田高等学校 校長 権太 正弘

教頭 野澤 俊英

教諭 小林 美樹

次第： 司会 吉田高等学校・1年生（流石 明 平井 華笑）

16:00～16:05 四川省内江市第二中学校 校長挨拶

16:05～16:10 吉田高等学校 校長挨拶

16:10～16:20 両校の学校紹介

16:20～17:10 Zoomを使い、10グループに分かれて英語によるオンライン交流会を開催。各グループ吉田高校側4名、内江市第二中学校側4～5名が参加。ディスカッションのトピックは現在検討中だが、日本・中国の伝統文化・食文化・気候や風土、お互いの学校の授業・部活動・人気のあるスポーツ、日本の漫画、各国の有名人など。

地域学校協働活動推進員等及び支援員のコーディネートによる

富士山学スペシャルグループの活動

1 活動の概要

- 地域全体で子供達の成長を支える社会の実現に向け、全ての公立学校・地域において、地域と学校の連携・協働体制の構築を推進する。
- 山梨県では国の補助事業を活用し、本年度新たに、地域と学校を繋ぐ役割をはたす地域学校協働活動推進員等と支援員の普及充実を目的とした補助制度を創設した。初年度は吉田高校に推進員と支援員を1名ずつ配置し、運用を始めている。
- 吉田高校では推進員と支援員が、地域と学校を繋ぐコーディネーターとして、生徒達の行っている地域学習・富士山学の授業をサポートしている。今年度は吉田高校の1年生を対象に、富士山学の課題設定をより深めて取り組む「スペシャルグループ（5チーム、20名）」を選抜。推進員・支援員が、スペシャルグループへの指導・助言を行っている。スペシャルグループでは、問い・課題の立て方、課題のまとめ方、地域の課題を掘り下げる力など地域探究活動の基本的事項を学び、来年度の富士山学で他の生徒のモデルとなることを目指している。

2 日時・会場

- 令和5年度 12月25日（月） 午後15:00～17:00（吉田高校）
- 12月26日（火） 午前10:00～11:00
（富士吉田市役所）
- 12月27日（水） 午後13:30～17:00（吉田高校）

3 内容

- 12月25日（月）
 - ・オリエンテーションとして、地域の課題の掘り下げ方、問い・課題の立て方、インタビュー手法などを学ぶワークショップを実施した。
- 12月26日（火）
 - ・富士吉田市役所企画課にインタビューを行った。また、道の駅富士吉田、富士吉田市立病院、まるオフィス（三浦さん・避難所経験者）へ取材を行った。
- 12月27日（水）
 - ・インタビュー・フィールドワークを振り返り、それぞれのチームの課題意識を高めると同時に、来年度の探究活動に向けて発想トレーニングワークショップを行った。

4 参加者

- 斎藤和真さん（推進員）、渡邊紀子さん（支援員）
（斎藤さん、渡邊さんとも、かえる舎職員）
- スペシャルグループ5グループ20名、吉田高校教員

スペシャルチームについてのアンケート結果

スペシャルチームの満足度を教えて！ 5段階評価	
大満足	14
おおむね満足	2
ふつう	0
やや不満	0
不満（もう少し...）	0

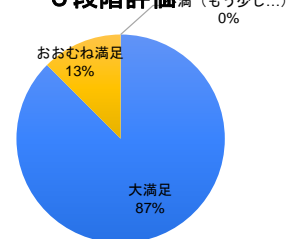
自分たちの企画（課題設定シート）の深まり度	
とても深まった	10
深まった	6
ふつう	0
あまり深まらなかった	0
深まらなかった	0

今後の自分たちへの活動への期待度	
今後も楽しみ	11
少し楽しみ	5
ふつう	0
少し不安	0
不安だ	0

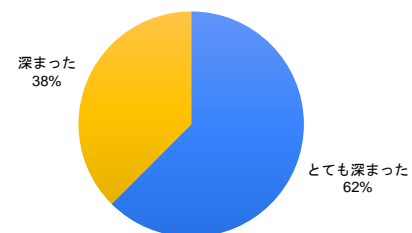
スペシャルチームの満足度を教えて！

5段階評価

- 大満足
- おおむね満足
- ふつう
- やや不満
- 不満（もう少し...）

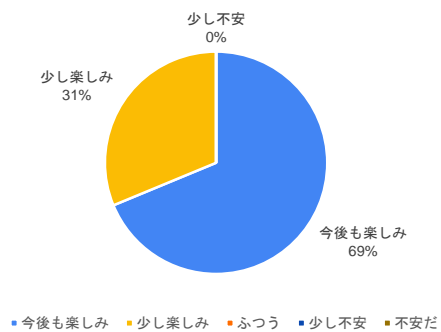


自分たちの企画（課題設定シート）の深まり度



- とても深まった
- 深まった
- ふつう
- あまり深まらなかった
- 深まらなかった

今後の自分たちへの活動への期待度



- 今後も楽しみ
- 少し楽しみ
- ふつう
- 少し不安
- 不安だ

令和5年度（1）月実施学校評価アンケート質問項目（1年生徒）

■回答人数:237名（7月:241名）

「大いにそう思う」場合には「0」「ほぼそう思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

% %

問題番号	項目	質問項目	0	1	2	3	達成率 (0+1)	↑ ↓	前回 7月
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	15.2	60.8	21.1	3.0	76.0	↓	82.6
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	39.2	55.3	4.2	1.3	94.5	↑	93.7
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	27.0	57.4	14.8	0.8	84.4	↑	82.6
4		吉田高校では、ICTを活用した授業が進んでいる。	23.6	50.2	23.2	3.0	73.8	↑	67.6
5		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	23.2	61.2	15.2	0.4	84.4	↓	85.5
6	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	37.6	49.4	11.8	1.3	87.0	↓	90.4
7		私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	29.7	55.9	14.4	0.0	85.6	↓	91.3
8		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	38.0	56.1	5.5	0.4	94.1	↓	96.3
9	生徒の社会性を養う	富士山学、理数探究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	29.5	56.5	13.1	0.8	86.0	↓	86.3
10		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	38.8	48.1	13.1	0.0	86.9	↓	90.9
11		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	33.8	58.7	6.3	1.3	92.5	↑	88.8
12		吉田高校では、情報発信や進路ツールとしてのICTの活用が進んでいる。	28.7	54.9	15.2	1.3	83.6	↓	86.3
13	その他	私は、節電(冷暖房を含む)・節水を実践し、環境に配慮している。	43.9	44.3	11.4	0.4	88.2	↑	85.9
14		吉田高校には、困った時に相談できるような信頼できる教員が多いと思う。	24.1	57.0	16.9	2.1	81.1	↑	78.4
15	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	25.7	59.5	13.1	1.7	85.2	↓	89.2

分析

達成率が8割に届かなかったものは全15項目の中で2項目であった。「4」について、BYODの初期設定が前回の調査（7月）と同時期であったため、ICTを活用した本格的な授業は夏休み明けからの実施となった。ICTの活用は教科・科目により、また単元によっても効果的な場面が異なるため、73.8%という数字が必ずしも低いとは思わない。今後も適時・適切に活用し、時代の先端をリードする生徒を育成したい。「1」について、前回の調査時は高校入学直後の約3か月であり、随所で「GP」について聞く場面が多く、何かと意識しやすかったのではないかと感じている。今は月間目標や定期試験、その他各学校行事の際に特に意識させるようにしている。今後も継続し、来年度は生徒が自ら考えられるような状況を作りたい。他にも前回調査より数値が落ちている項目が複数あるが、どれも8割は超えており、特別気になる点はない。本校で約1年学校生活を経験し、ある意味キチンと評価ができるようになったのではないかと感じる。「2」、「3」の数値は上がっており、学校生活の核である授業が前向きに評価されているのは非常に好ましい状況であると思う。

令和5年度（1）月実施学校評価アンケート質問項目（2年生徒）

■回答人数:214名（7月:215名）

「大いにそう思う」場合には「0」「ほぼそう思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

% %

問題番号	項目	質問項目	0	1	2	3	達成率 (0+1)	↑ ↓	前回 7月
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	21.6	56.3	17.8	4.2	77.9	↓	78.3
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	27.7	64.3	7.5	0.5	92.0	—	92.0
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	23.9	58.2	16.0	1.9	82.1	↑	80.2
4		吉田高校では、ICTを活用した授業が進んでいる。	23.9	48.8	24.9	2.4	72.7	↓	79.8
5		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	31.0	56.3	11.7	0.9	87.3	↑	86.8
6	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	33.8	47.0	15.5	3.8	80.8	↓	83.5
7		私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	32.4	54.5	11.7	1.4	86.9	↓	89.2
8		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	34.7	54.9	8.9	1.4	89.6	↓	91.1
9	生徒の社会性を養う	富士山学、理数探究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	35.2	48.4	14.6	1.9	83.6	↑	83.4
10		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	39.4	46.0	10.8	3.8	85.4	↑	85.3
11		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	25.8	60.6	11.7	1.9	86.4	↑	84.3
12	その他	吉田高校では、情報発信や進路ツールとしてのICTの活用が進んでいる。	26.3	52.6	19.7	1.4	78.9	↓	83.5
13		私は、節電(冷暖房を含む)・節水を実践し、環境に配慮している。	31.5	54.9	12.2	1.4	86.4	↓	87.3
14		吉田高校には、困った時に相談できるような信頼できる教員が多いと思う。	25.4	54.0	18.8	1.9	79.4	↓	84.9
15	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	26.8	57.8	13.2	2.4	84.6	↓	89.2

分析

【概況】

- ・7月と比較すると下がっている達成率もあるが大幅に下がった項目は見られない。全体的には高い達成率であるといえる。
- ・「生徒の知識活用力を高める」項目では達成率が高く、効果的な授業展開ができていていると感じる。
- ・「生徒の主体性を高める」項目では前回調査から低下しているが、生徒と接していて主体性が低いとはそれほど感じることはないが結果を受け止めて注意深く見ていく必要がある。

【課題解決に向けて】

- ・吉高GPの意識を高める必要があると感じる。年々達成率が徐々に低下傾向にあるので様々な活動で意識させることで多くの項目で課題解決になると思うので授業や部活などを中心に意識を高めていきたい。

令和5年度（1）月実施学校評価アンケート質問項目（3年生徒）

■回答人数:228名（7月:229名）

「大いにそう思う」場合には「0」「ほぼそう思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

% %

問題番号	項目	質問項目	0	1	2	3	達成率 (0+1)	↑ ↓	前回 7月
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	28.1	55.7	15.4	0.9	83.8	↓	88.1
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	30.7	61.0	7.9	0.4	91.7	↓	92.5
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	21.9	57.5	19.7	0.9	79.4	↑	78.3
4		吉田高校では、ICTを活用した授業が進んでいる。	20.6	53.1	25.0	1.3	73.7	↓	82.3
5		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	32.0	60.1	7.9	0.0	92.1	↑	90.3
6	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	49.1	39.0	7.9	4.0	88.1	↓	89.0
7		私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	42.5	51.3	6.1	0.0	93.8	—	93.8
8		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	43.4	52.2	4.4	0.0	95.6	↓	96.9
9	生徒の社会性を養う	富士山学、理数探究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	34.1	51.8	14.2	0.0	85.9	↑	84.0
10		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	43.6	44.9	10.6	0.9	88.5	↓	91.6
11		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	35.2	54.2	9.3	1.3	89.4	↑	89.0
12		吉田高校では、情報発信や進路ツールとしてのICTの活用が進んでいる。	33.3	53.5	11.4	1.8	86.8	↓	89.4
13	その他	私は、節電(冷暖房を含む)・節水を実践し、環境に配慮している。	39.0	50.4	9.7	0.9	89.4	↓	91.2
14		吉田高校には、困った時に相談できるような信頼できる教員が多いと思う。	29.8	56.1	12.7	1.3	85.9	↑	84.9
15	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	32.9	59.7	7.5	0.0	92.6	↓	93.8

分析

7月の結果と比較すると、ほぼすべての項目で下がっている。これは生徒自身が目の前の受験にとらわれがちになってしまい、学習以外のことへの視点がなくなったことによるものだと思われる。しかしこれは致し方のないことのように思える。そんな中でも項目3の「授業の楽しさ」や項目14の「相談できる教員が多い」ところが増加しているのは、3学年担当の先生方が、親身になって生徒に接していることの表れなので、大変感謝している。生徒もそれに呼応するかのよう、いろいろな場面で自分たちの力を発揮しているのは、ほぼすべての項目で80%を超えていることから明らかである。受験ということもあり、ICTを活用した授業展開少なかったのは課題が残るが、全体的には昨年同期と比べて、すべての項目で上昇していたので大変よかったと思う。

令和5年度 学校評価アンケート質問項目(保護者対象)

「大いに思う」=「0」「ほぼ思う」=「1」
「あまりそう思わない」=「2」「全くそう思わない」=「3」

■回答人数: 532 名 前年度 530名

■達成率=(大いに思う)+(ほぼ思う)

問題番号	項目	質問項目					%		%	
			0	1	2	3	達成率(0+1)	↑↓	前年度	
1	を 生徒の 高める 知識 活用 能力	吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	21.2	70.7	8.1	0.0	91.9	↑	91.6	
2		吉田高校は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	19.2	71.4	9.2	0.2	90.6	↑	87.9	
3		私の子どもは、栄養面や睡眠時間の確保などに留意して、健康の保持・増進に努めている。	16.4	57.0	24.6	2.1	73.4	↑	71.4	
4	生 徒の 主 体 性 を 高 め る	私の子どもは学習時間記録表などを活用して、計画的に行動している。	12.2	46.8	35.2	5.8	59.0	↑	58.2	
5		吉田高校では、他の人の置かれた立場や状況を理解しようと努め、それに応じて話したり振る舞うことを指導している。	15.6	69.7	13.6	1.1	85.3	↓	85.5	
6		吉田高校では、授業や特別教育活動を通して地域(社会)の話題や課題に目を向けさせ、自分との関わりを考えさせるような工夫や配慮がなされている。	22.6	66.1	11.1	0.2	88.7	—	88.7	
7		私の子どもは、自分の進路に関心を持ち、将来の職業や生き方について考えるように努めている。	36.7	48.6	12.8	1.9	85.3	↑	84.0	
8	生 徒の 社 会 性 を 養 う	私のこどもは、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	34.8	50.3	14.1	0.8	85.1	↑	84.8	
9		吉田高校では、SDGsを理解させるとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるよう学習活動に取り組んでいる。	15.6	68.0	16.2	0.2	83.6	↑	80.2	
10		吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。	28.8	60.3	10.4	0.6	89.1	↑	87.5	
11	その他	私は、学校の教育方針を理解している。	11.7	73.1	14.7	0.6	84.8	↑	83.6	
		吉田高校では、吉田高校グラデュエーション・ポリシーの8つの力について向上を図っていますが、お子さんは、それぞれの力が高校生活の中で向上したと思いますか。								
12	吉 高 G P	① 自己肯定力 … 短所も含めて、自分を認める力	21.7	64.2	13.8	0.4	85.9	↑	84.0	
13		② 傾聴力 … 他者の意見を謙虚に聴く習慣	22.9	63.0	14.0	0.2	85.9	↑	84.6	
14		③ 分析力 … 事実を客観的に分析する習慣	19.7	67.9	12.3	0.2	87.6	↑	84.7	
15		④ 思考力 … 物事を鵜呑みにせず、「何故か」を考える習慣	19.3	66.4	14.2	0.2	85.7	↑	84.4	
16		⑤ 発信力 … 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法	17.0	57.1	25.0	1.0	74.1	↑	73.1	
17		⑥ 想像力 … 未来(結果)を考え、想像する力	18.9	63.3	17.2	0.6	82.2	↑	79.1	
18		⑦ 創造力 … 課題を解決する方法を創造する力	18.0	65.0	16.3	0.8	83.0	↑	81.2	
19		⑧ 行動力 … 自身の考えに基づき、行動する力	23.5	63.6	12.7	0.2	87.1	↑	83.8	

分析

達成率が8割に届かなかったものは全15項目の中で3項目であった。16 GPの「発信力」(自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法)の項目が74.1%と他の項目に比べて低い。しかし、教職員の結果は、93.6%と高い。発信力は学校生活だけでなく、家庭、社会などのあらゆる場面で必要とされる力であるので強化していきたい。

分析

2.16～23 7月のアンケート結果に比べて、すべての項目で吉高GPの達成率が上昇していますが、吉高GPの意義をさらに浸透させるために、取組の再設定が必要になってきていると感じます。学年では2か月目標と連動したGPの振り返り、係分掌では行事等の目標をGPと関連させて再設定、教科では評価計画にGPを入れていくなどの取組について検討を進める必要があると考えます。

4.5.7 今年度の学力向上のための取組の3本柱として①観点別評価の研究②ICTの利活用③学力向上の取組をあげましたが、7月のアンケート結果に比べて①～③の達成率が向上していることは、「学力向上の取組」が確実に成果を上げたと考えられます。今年度の後期からスタートした各教科の公開授業と教科会議を来年度はさらにリンクさせて、授業改善、ICTの利活用、観点別評価の研修・研究をさらに推進してほしいと考えています。

10 本校は素晴らしい伝統校ですが、学校の歴史や伝統について、生徒に語る機会が少ないと思います。授業やHRまた学校行事の際に、本校の歴史と伝統についてきちんと学ばせたいと思います。今年度は、学校林の下草刈作業に、昨年度より多くの先生方に参加していただいた点は評価できると思います。

13 SDGsへの学びについては、全員の先生方にSDGsの理念を授業に反映させて、その実践を報告していただきました。SDGsは普遍的な教育的価値があるので、各教科の年間指導計画・評価計画にSDGsの理念や考え方を来年度以降さらに取り入れていくことが求められると思います。ボランティア活動については、来年度以降、ボランティア委員会を中心に、ボランティア活動、体験活動、地域の行事等へ積極的に参加を促していきたいと考えています。

15 節電・節水については、HR単位での啓発の他に、環境管理委員会・生徒会本部が中心となって、具体的な数値目標を掲げた上で、全校生徒に節電・節水を呼びかけ、結果をClassiで管理したり配信するなどの工夫もできるのではないかと考えています。

24.25 働き方改革の推進については、7月のアンケート結果に比べて、達成率が大きく向上しました。また、年度当初に比べて、超過勤務者の人数が大きく減少しています。定期試験の採点日の2日間導入、自動採点ソフトのさらなる活用、観点別評価の効果的な方法について教科をこえての共有のほかに、教材やICT技能のいっそうの共有化、担任・副担任の業務の割振りの見直し等を進め、業務の効率化をさらに推進したいと考えています。

学校目標・経営方針	
本年度の重点目標	1 生徒の知識活用能力を高める
	2 生徒の主体性を高める
	3 人とかかわりの中で生きていることを自覚させる
	4 「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(2月22日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	生徒の知識活用能力を高める	※1 吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識し、生徒の主体性をさらに育成する授業を実施する。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
		評価を適切に行い、自己肯定感の高揚を図る。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
		授業と連動した課題を設定し、知識の活用・定着を図る。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
2	生徒の主体性を高める	常に「分析し、思考し、創造し、発信する」機会の提供を意識した指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
		自己の課題を発見し、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し、行動する」ことができる生徒像を意識した指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
		日常生活、行事を通じて、自分の言動に責任を持ち、自ら行動する態度を養う指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
3	人とかかわりの中で生きていることを自覚させる	学校内外との関わりの中で、自己肯定感を養う指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
		社会に関心を持ち、未来の社会について考える態度を養う指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
		ユネスコスクールの加盟認可を目指し、SDGsの実現のために知識と実現のための行動力を身に付ける指導を行う。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等
4	「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る	生徒、自分の家族と触れ合う機会を増やすために、業務内容全体の再構築や業務の分業と協業を推進する。	生徒・教職員・保護者によるアンケート等

学校関係者評価	
実施日 (令和6年2月27日)	
評価	意見・要望等

※1) 吉田高校グラデュエーション・ポリシー(吉高GP) ... 本校3年間を通して8つの力(自己肯定力・傾聴力・分析力・思考力・発信力・想像力・創造力・行動力)を身につけること。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

校則の見直しについて

○メンバー

【教員】教頭、生徒指導主事、生徒会主任、野中、北村、渡邊浩

【生徒】生徒会長、副会長2名、各学年理事代表3名（3年2組藤井菜々子さん、2年6組岡山さくらさん、1年6組木村涼飛さん）、マナーアップ委員長

○これまでの協議会（計13回）

（校則協議会→運営委員会→職員会議で協議）

第1回 6月15日（木） 第2回 7月10日（月） 第3回 7月24日（月）
第4回 8月1日（火） 第5回 9月20日（水） 第6回 9月29日（金）
第7回 11月2日（木） 第8回11月21日（火） 第9回12月8日（金）
第10回12月21日（木） 第11回 1月11日（木） 第12回 1月30日（火）
第13回 2月15日（木）

○令和6年1月に見直しが決まった内容

1 靴下の着用における規定の緩和

- ・新案：黒 紺 白 グレー 茶色（単色、ただしマーク・ラインはワンポイントとする）
- ・なお、式典時に際しては男女ともに黒・紺で統一
くるぶしソックスについては普段については認可とし、式典時には
男子は着席したときに素肌が見えない長さ、女子はミドル丈ソックス

2 ジャージ登下校の認可

- ・新案：部活動終了後、および朝練習登校時については学校ジャージおよび部活動ジャージの着用についても認可とする。

3 ウィンドブレーカーの年間着用について

- ・認可とし、この方向で進める。

○来年度以降も引き続き検討する内容

1 男女間の校則の差・ジェンダーギャップの解消

- ・来年度以降もこの方向で進める。

2 学校・部活動ジャージでの自習室の利用の許可

- ・学校防犯上、今年度は見送った→来年度以降、検討を継続

○来年度以降（4月から）に見直す方向の内容（協議中）

1 スマートフォンの利用の緩和について

- ・「吉田高校スマホ利用表」（資料①）について、1月15日～28日まで試用期間を実施。
- ・チェックリスト（資料②）を2回実施。
- ・結果（資料③）
 - ・守れていない生徒もいるが、全体として特に大きな問題や混乱はなかった。
 - ・チェックすることで意識するので、来年度以降も定期的にチェックを続ける
 - ・利用表を教室に掲示
 - ・守れていない生徒をどうするのか→検討していく

2 頭髪規定の緩和

- ・基本方針→『清楚かつ清潔感のある頭髪』
- ・『吉田高校頭髪さわやかマニュアル(仮称)』の制作
- ・1月15日～2月12日まで試用期間を実施。
- ・チェックリスト（資料④）を2回実施。

結果（資料⑤）

- ・守れていない生徒もいるが、全体として特に大きな問題や混乱はなかった。
- ・チェックすることで意識するので、来年度以降も定期的にチェックを続ける
- ・マニュアルを教室に掲示
- ・守れていない生徒をどうするのか→検討していく

・以下は改定作業中の『生徒便覧』と『吉高頭髪さわやかマニュアル』の一部である
『生徒便覧』

(5) 髪型 ・染色、パーマメント、熱等での加工をしないこと。

吉高頭髪さわやかマニュアルを参照する。

~~※男子は目にかからない髪型で、制服の襟が隠れない程度とする。横は耳が見えること。また、ワックス等の整髪剤はつや、硬さ香など自然な状態を損なわないものとする。極端な長さの変化や段差、左右の非対称など、見た目に不自然な髪形は不可とする。※女子の髪の長さは不問だが、目にかからない髪型か、髪留め、ゴムを利用して目にかからないようする。編み込み、左右非対称の髪形は不可とする。※男女とも化粧及び眉の加工はしない。~~

『吉高頭髪さわやかマニュアル』

①整髪料：＜男女共通＞品位（つや・硬さ・香りなど）を損なわない範囲で使用する。

②化粧：＜男女共通＞化粧しない。色がついているカラコン・リップはしない。

③眉：＜男女共通＞極端にいじらない。

④長さ

＜男子＞

前：自然な状態で目が完全に隠れない

横：自然な状態で耳が完全に隠れない、青白く見える長さは不可、

後ろ：襟足が襟の最下方にかからない（夏服着用時：開襟シャツ・ポロシャツの襟）

（冬服着用時：ジャケットの襟）青白く見える長さは不可、

サイドや後ろを剃ったり、青白く見える長さは不可

ラインを入れることは不可

＜女子＞

特になし 髪留め・ゴム・リボンは派手でないものとする

⑤髪型

＜男子＞以下の写真参照

ライン×、編み込み×、モヒカン×、サイド・後ろは剃ったり、青白く見える長さ×

〔悪い例〕

〔良い例〕

＜女子＞

地肌が見えない程度の編み込みやお団子も可とする。

その他の書き型については男子と同様にする。

ライン×、編み込み×、モヒカン×、サイド・後ろは剃ったり、青白く見える長さ×

○来年度の取り組みについて

・「生徒の発案で見直した校則を、生徒自身の力でどのように守っていくのか」について、引き続き校則協議会として話し合いを継続していく。

・具体的には、以下の点について検討していく。

- ①チェック方法、服装検査、守れない生徒の指導をどうするのか。
- ②全校生徒への周知・啓発活動をどうするのか。
- ③教職員のコンセンサスを図るにはどうするのか。
- ④マナーアップ委員会の活性化と連携をどうするのか等。

検討中の事項の話し合いを続けていく

・チェック方法、服装検査、守れない生徒の指導をどうするのか、全校生徒への周知・啓蒙活動をどうするのか、教職員のコンセンサスを図るには、マナーアップ委員会とのタイアップをどうするかなどを検討していく。

○ポロシャツについて

○制服検討委員会のメンバー

・野澤教頭 藤城 小河内 渡邊勇 小川 宮川

○前回の学校運営協議会後の動き

12月 PTA 理事会で報告

R6年

1月 現1・2年生の注文とりまとめ

最終申し込み状況は169名（1年128名、2年41名）、
275着（1年212着、2年63着）

3月 新入生の注文

5月 納品

スマホ利用表

★利用時間は朝の始業前、休み時間（含む昼休み）、放課後

★周りの人が不快な思いをしないように気を遣う

	歩きながら のスマホ使 用	学習に関わる動画視聴	音楽	学校活動に関わる連絡 ・電話連絡、ライン連絡、メール連 絡、クラッシー確認	ゲーム 漫画	写真撮影	動画撮影	コークオン お財布代わり
		使用時は必ずイヤホンする	使用時は必ずイヤホンする	予定確認 連絡調整		予定、時間割、提 出物などのみ 学園祭や部活動練 習など許可された 場合のみ	学園祭や部活動 練習など許可さ れた場合のみ	自販機利用時の み
教室	×	○	○ 始業前・放課後の自習時のみ	○ 通話は×	×	×	×	×
廊下	×	×	×	○	×	×	×	×
図書館	×	×	×	×	×	×	×	×
自習室・大会議室	×	○ 始業前・放課後の自習時のみ	○ 始業前・放課後の自習時のみ	○ 通話は×	×	×	×	×
校舎外	×	×	×	○ 車に気をつける	×	×	×	×

スマホ利用チェックリスト

年 組 番 名前

確認者氏名

	チェック項目	自分OorX	自分以外OorX
1	歩きスマホ・歩きイヤホン 学校敷地内禁止		
2	学習に関する動画視聴 朝・放課後の教室、自習室、大会議室のみ		
3	音楽再生目的の利用 朝・放課後の教室、自習室、大会議室のみ		
4	学校活動に関わる連絡目的の利用 電話連絡・LINE連絡・Classi確認 *教室、廊下、*自習室、*大会議室、校舎外で (*通話は除く)		
5	ゲーム・漫画禁止		
6	写真撮影・動画撮影 予定、時間割、提出物関係のみ ※着風祭や部活動練習などで許可された場合のみ		

・校則協議会より

自分のスマホの使い方について、振り返ってみましょう。
その後、自分以外の人の使い方についても、確認してみましょう。

実施日 (月 日)

スマホ利用チェックリスト(クラス集計)

年 組

欠席 人

	チェック項目	自分OorX		自分以外OorX	
		O人数	X人数	O人数	X人数
1	歩きスマホ・歩きイヤホン 学校敷地内禁止				
2	学習に関する動画視聴 朝・放課後の教室、自習室、大会議室のみ				
3	音楽再生目的の利用 朝・放課後の教室、自習室、大会議室のみ				
4	学校活動に関わる連絡目的の利用 電話連絡・LINE連絡・Classi確認 *教室、廊下、*自習室、*大会議室、校舎外で (*通話は除く)				
5	ゲーム・漫画禁止				
6	写真撮影・動画撮影 予定、時間割、提出物関係のみ ※着風祭や部活動練習などで許可された場合のみ				

・校則協議会より

各クラスの理事は、クラス全員のスマホセルフチェックの結果をこの紙に集計してください。
担任の先生に見ていただいてから、最後に藤城先生へ報告してください。

実施日 (月 日)

資料③

スマホチェック

	1 歩きスマホ歩きイヤホン				2 学習動画				3 音楽再生				4 連絡				5 ゲーム・漫画				6 写真撮影・動画撮影			
	自分で チェックする		周囲の人は		自分で チェックする		周囲の人は		自分で チェックする		周囲の人は		自分で チェックする		周囲の人は		自分で チェックする		周囲の人は		自分で チェックする		周囲の人は	
	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
1年1組 1/19	29	3	31	1	32	0	32	0	31	1	30	2	32	0	32	0	31	1	30	2	32	0	30	2
1/26	35	1	34	2	36	0	36	0	36	0	34	2	36	0	36	0	34	2	31	5	35	1	34	2
1年2組 1/19	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	36	2	38	0	36	2
1/26	39	0	38	1	39	0	39	0	39	0	39	0	39	0	39	0	39	0	39	0	39	0	39	0
1年3組 1/19	37	0	37	0	37	0	35	2	36	1	32	5	36	1	36	1	36	1	21	16	36	1	37	0
1/26	39	0	38	1	39	0	37	2	39	0	38	1	39	0	39	0	39	0	29	10	39	0	39	0
1年4組 1/19	40	0	40	0	39	1	40	0	38	2	39	1	39	1	40	0	40	0	38	2	40	0	40	0
1/26	40	0	40	0	39	1	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	38	2	40	0	40	0
1年5組 1/19	37	1	37	1	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	36	2	28	10	36	2	36	2
1/26	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	39	1	39	1	36	4	39	1	38	2
1年6組 1/19	38	1	38	1	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	38	0	37	1	37	2	38	0	38	0
1/26	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	40	0	39	1	40	0	40	0
2年1組 1/19	28	0	28	0	28	0	27	1	28	0	27	1	28	0	28	0	28	0	27	1	28	0	28	0
1/26	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0
2年2組 1/19	29	1	27	3	28	2	27	3	29	1	26	4	29	1	29	1	27	3	16	14	25	5	25	5
1/26	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	34	1	35	0	34	1	29	6	30	5	30	5
2年3組 1/19	32	1	33	0	33	0	33	0	30	3	30	3	33	0	31	2	32	1	24	9	33	0	33	0
1/26	30	1	30	1	31	0	31	0	31	0	31	0	31	0	31	0	28	3	24	7	31	0	31	0
2年4組 1/19	33	1	34	0	34	0	33	1	34	0	34	0	34	0	34	0	33	1	28	6	34	0	33	1
1/26	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	32	0	30	2	32	0	32	0
2年5組 1/19	30	2	30	2	31	1	31	1	31	1	32	0	31	1	31	1	30	2	24	8	31	1	31	1
1/26	30	1	29	2	31	0	31	0	31	0	31	0	30	1	30	1	30	1	25	6	31	0	29	2
2年6組 1/19	32	4	32	4	36	0	36	0	36	0	36	0	35	1	35	1	35	1	35	1	35	1	36	0
1/26	39	0	39	0	38	0	38	0	39	1	39	1	39	0	39	0	39	0	38	1	39	0	39	0
3年1組 1/19			21	5			24	2			23	3			26	0			21	5			24	2
1/26																								
3年2組 1/19	34	1	33	2	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	34	1	34	1	35	0	35	0
1/26																								
3年3組 1/19	33	1	33	1	34	0	34	0	34	0	34	0	34	0	34	0	33	1	33	1	34	0	34	0
1/26	30	2	31	1	31	1	31	1	31	1	31	1	31	1	31	1	31	1	29	3	31	1	31	1
3年4組 1/19	37	0	37	0	36	1	37	0	37	0	37	0	37	0	37	0	37	0	37	0	36	1	37	0
1/26	33	0	33	0	32	1	33	0	33	0	33	0	33	0	33	0	33	0	33	0	33	0	33	0
3年5組 1/19	34	0	33	1	34	0	34	0	34	0	33	1	34	0	34	0	34	0	33	1	34	0	34	0
1/26	33	0	33	0	33	0	33	0	33	0	32	1	33	0	33	0	33	0	32	1	33	0	32	1
3年6組 1/19	37	3	38	2	39	1	39	1	38	2	39	1	40	0	40	0	40	0	38	2	40	0	40	0
1/26	34	1	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	35	0	34	1	35	0	35	0
	1139	25	1159	31	1153	9	1174	14	1151	13	1163	27	1155	8	1180	9	1139	24	1058	132	1144	19	1161	28

頭髪さわやかチェックリスト

年 組 番 名前

確認者氏名

	チェック項目	欠席 人		備考
		自分OorX	友達から見た自分OorX	
1	頭髪（長さ）			・目、耳が隠れていない ・地肌が青白く見えていない ・襟足が制服の襟にかかっていない
2	頭髪（加工）			・染色、パーマ等をしていない ・派手な編み込みをしていない
3	髪留め、髪ゴム			華美なものでない
4	整髪料			品位を損なわない程度の使用

・校則協議会より

自分の頭髪ついて、チェックしてみましょう。
相互チェックの際は、チェックリストを友達に渡して、「友達から見た自分の頭髪の状況」を「友達から見た自分OorX」の欄に友達に記入してもらいましょう。

実施日（ 月 日）

頭髪さわやかチェックリスト[クラス集計]

年 組

	チェック項目	備考	自分OorX		友達から見た自分OorX	
			○人数	×人数	○人数	×人数
1	頭髪（長さ）	・目、耳が隠れていない ・地肌が青白く見えていない ・襟足が制服の襟にかかっていない				
2	頭髪（加工）	・染色、パーマ等をしていない ・派手な編み込みをしていない				
3	髪留め、髪ゴム	華美なものでない				
4	整髪料	品位を損なわない程度の使用				

・校則協議会より

各クラスのマナーアップ委員は、クラス全員の頭髪セルフチェックの結果をこの紙に集計してください。
担任の先生に見ていただいてから、最後に藤城先生へ報告してください。

実施日（ 月 日）

高習熟度クラスの総括と来年度以降の在り方について

1 今年度の高習熟度クラス（1年5組）の成果について

- (1) 部活動等を頑張りたいという理由で理数科を志望しないが、ハイレベルな授業を求めている生徒の受け皿になっている。
- (2) 理解度が高い生徒が集まり充実した授業が展開できている。進度も普通クラスより早くなり、網羅できる範囲が増える（英語コミュニケーションⅠは1レッスン、論理・表現Ⅰは3レッスン先行）。
- (3) 定期試験においては、国語（現代の国語・言語文化）、数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A）、英語（英語コミュニケーションⅠ・論理・表現Ⅰ）の3教科で、普通クラスとは異なる試験を実施した。難易度が普通クラスより高いものの、平均点が下回るということもなく、生徒たちはレベルの高い授業・試験に対応できている。
- (4) 模擬試験や実力テスト等においても順当な成績が出ている（おおむね理数科の下、普通クラスの上という位置づけになっている）。
- (5) 意識の高い生徒が切磋琢磨できる環境を提供できている。積極的に学習に取り組み、それについて気軽に話せる仲間がいることがプラスだと考えている生徒は、来年度も5組を希望している（このクラスに息苦しさをを感じる生徒は、次年度普通クラスを希望することが可能であり、生徒の希望には対応できている）。
- (6) 高習熟度クラスを導入したことにより、普通クラスにおいても生徒の理解度や学習進度に合わせた丁寧な指導が可能となった。

2 今年度の高習熟クラス（1年5組）の課題について

- (1) 高いレベルの学習内容を提供しようとした結果、家庭学習で補う必要性が生じた。5組は部活動に積極的な生徒が多くこういった課題が負担に感じる生徒もいた。
- (2) 理数科には放課後や長期休業中の課外があるのに対し、5組は授業以外の課外の時間はほとんどなく、夏休み中の学習会（4日間）のみであった。このような時間の活用を一層進めていく必要がある。一方で、理数科と同じように放課後や長期休業中の課外を行うことは、部活動との両立及び教員の人員配置という視点から困難である。

3 来年度のクラス運営に向けて意思統一すべきこと

- (1) どのような生徒を育てていくか（現状では2年次以降、文系に進む上位層のよい育成の場になっている。これは理数科ともう一つの看板として望ましいことであると考える）。
- (2) 授業と課外（オープンスタディ）の在り方。
 - ・部活動を気にせずに課外ができる場面の利用ということで、オープンスタディ（土曜日の講座）の活用について教科を中心に議論を進めている。
- (3) 課題の出題と評価方法。
- (4) 授業について行けない生徒が出てきた場合どのように指導するか。
 - ・国語及び英語では教員配当によりパート展開ができない。
- (5) 1年次に普通クラスにいて2年次に5組になる生徒、1年次に5組にいて2年次に普通クラスになる生徒がいる。来年5組に初めて入る生徒に対する学習面のフォローや普通クラス組になる生徒の精神的なフォローが必要である。

4 高習熟度の運営に対しての意見・要望等について

- (1) 高習熟度クラスは今年度、1学年のみだったので、担任・副担任・各教科担任・1学年という小さい枠組みで検討や情報交換を行ってきたが、来年度は組織的な対応が欠かせない。年に数回の関係者会議の開催を検討している。
- (2) 高校入試の合格通知に封入するリーフレット（HPにも掲載）の改訂を検討中である。今年度の取組に基づき、どのような生徒に希望してほしいかを具体化していくことが大切である。
- (3) 普通科クラスの指導方法についても検討が必要である。吉田高校の普通科で学ぶことの具体的なイメージ（探究的・教科横断的な学びにより高められる力、部活動を通じて高められる力、普通科クラスでも希望の進路がかなえられる進路指導など）を共有する必要がある。

5 生徒の感想について

- 部活動も学習も積極的な人が多く、自分も頑張ろうという気持ちになった。
- 授業内容が深く、課題が多い。しかし、誰か他のクラスメートに聞けば教えてもらえるという点はとても良い。
- より具体的なデータによって選抜されるべきであり、「5組だから～しなさい。」と言われるのは嫌であった。

山梨県立吉田高等学校 学校運営協議会の運営等に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、「山梨県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」及び「山梨県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱」に基づき、山梨県立吉田高等学校（以下「吉田高校」という。）に設置する学校運営協議会（以下「協議会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(協議会の設置)

第2条 山梨県教育委員会（以下「教育委員会」という。）は吉田高校に協議会を置く。

2 前項の協議会は教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者及び地域住民等による学校運営への支援・協力を促進することにより、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。

(基本的な方針の承認)

第3条 校長は、次の各号に掲げる事項について、毎年度基本的な方針を作成し、協議会の承認を得るものとする。

- (1) 教育目標及び学校経営計画に関すること
- (2) 教育課程の編成に関すること
- (3) その他校長が必要と認めること

2 校長は、前項の規定により承認された基本的な方針に従って学校運営を行うものとする。ただし、承認が得られない特別な事情がある場合は、校長は承認を得ずに学校運営を行うことができる。

3 前項でいう特別な事情とは、次に掲げる事項とする。

- (1) 協議会の委員（以下「委員」という。）同士の意見が対立して協議会として合意形成が行えない場合
- (2) 協議会としての活動の実態が認められない場合
- (3) 校長と協議会の方針が対立し、学校の円滑な運営に著しい支障を生じるおそれがあると認める場合
- (4) 一部又は全部の委員による偏った運営がなされていると認められる場合
- (5) その他学校運営協議会の運営が適正を欠いていると認められる場合
- (6) やむを得ない理由により協議会の開催ができない場合

(意見の申し出)

第4条 協議会は、前条第1項各号に掲げる事項のほか、吉田高校の運営全般について校長又は校長を経由して教育委員会に対して、意見を述べることができる。

2 協議会は、吉田高校の職員の任用に関して次に定める事項について、校長を経由して教育委員会に対して意見を述べるることができる。ただし、特定の個人に関するものを除くものとする。

- (1) 学校運営の基本方針の実現に資する建設的な意見
- (2) 学校の教育上の課題を踏まえた一般的な意見

(学校運営等に関する評価)

第5条 協議会は、毎年度1回以上、吉田高校の運営状況等について評価を行うものとする。

(委員の委嘱)

第6条 委員は15名以内とし、次の各号に掲げる者のうちから校長の推薦により教育委員会が委嘱又は任命(以下「委嘱」と総称する。)する。ただし、次の第1号から第4号に掲げる者は、協議会の委員に必ず含めるものとする。

- (1) 吉田高校の所在する地域の住民
- (2) 吉田高校に在籍する生徒の保護者
- (3) 吉田高校の運営に資する活動を行う者
- (4) 校長
- (5) 吉田高校の教職員
- (6) 学識経験者
- (7) 関係行政機関の職員
- (8) 吉田高校の所在する地域の産業界等の代表者
- (9) その他教育委員会が適当と認める者

2 委員の辞職等により欠員が生じた場合には、教育委員会は速やかに新たな委員の委嘱を行うものとする。

3 委員は、特別職の地方公務員の身分を有する。

4 委員以外の者も協議会の求めに応じて意見を述べることができる。

(守秘義務等)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

2 前項のほか、委員は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 委員たるにふさわしくない非行を行うこと
- (2) 委員としての地位を営利行為、政治活動、宗教活動等に不当に利用すること
- (3) その他、協議会及び吉田高校の運営に著しく支障をきたす言動を行うこと

(任期)

第8条 委員の任期は、委嘱の日から当該委嘱の日が属する年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

2 委員の再任は、妨げない。ただし、連続して5期を超えないものとする。

(会長及び副会長)

第9条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選出する。また、校長及び教職員は会長及び副会長の職に就くことはできない。

2 会長が会議を招集し、議事を掌る。原則として会長が会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を行うものとする。

(議事)

第10条 協議会は、会長が、校長と協議の上、開催日前に議案を示して招集する。ただし、緊急を要する場合には、この限りでない。

2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

- 3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 議事について利害関係を有する委員は、当該議事に参与することができない。
- 5 会長は、議事について会議録を作成し、保管しなければならない。

(部会)

- 第11条 協議会は、協議会の円滑な運営を図るとともに、具体的な事項を検討するため、協議会に部会を置くことができる。
- 2 部会で検討した事項は、協議会に報告する。
 - 3 部会の運営その他部会に関し必要な事項は、別に定める。

(協議会の会議の公開)

- 第12条 協議会の会議は、次に掲げる場合を除き公開する。
- (1) 吉田高校の職員の採用その他の任用に関する事項について協議するとき
 - (2) その他特別の事情により協議会が必要と認めたとき
- 2 協議会の会議を傍聴しようとする者は、あらかじめ会長に申し出なければならない。
 - 3 傍聴人は、会議の進行を妨げる行為をしてはならない。
 - 4 協議会は、協議会の会議の全部又は一部を非公開とすることを決定した場合は、その理由を明らかにしなければならない。

(協議会の会議の周知)

- 第13条 会長は、協議会の会議の開催日について、学校のホームページ等の適切な方法により県民に対する周知に努める。ただし、協議会の会議を緊急に開催する必要性が生じたとき等やむを得ない場合はこの限りでない。

(協議結果等の公表)

- 第14条 会長は、協議会の会議の公開、非公開にかかわらず、協議会の会議の終了後、議事録を作成するとともに、協議会の会議の議題及び議事の進行状況が分かる会議の概要を学校のホームページ等に掲載するよう努めるものとする。
- 2 協議会の会議資料及び議事録等の公開に当たっては、山梨県情報公開条例第8条各号に該当する事項の取扱いに十分留意する。また、委員の個人情報（氏名、職業、地位、会議の出欠、会長等の別等）を公開する場合は、方法及び内容について、事前に本人の了承を得る。

(委員の解嘱)

- 第15条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、委員を解嘱又は解任（以下「解嘱」と総称する。）することができる。
- (1) 本人から辞任の申出があったとき
 - (2) 第7条の規定に違反したとき
 - (3) 心身の故障のため職務を遂行することができないとき
 - (4) その他解任に相当する事由が認められるとき
- 2 校長は、委員が前項各号のいずれかに該当すると認められる場合は、直ちに教育委員会に報告しなければならない。
 - 3 教育委員会は、委員を解嘱する場合には、その理由を示すとともに、当該委員から意見陳述の機会を与えることを求められたときは、これを認めなければならない。

(委任)

第16条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営やその他協議会に関し必要な事項は、協議会が別に定める。

附則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

令和5年度 第3回吉田高等学校運営協議会座席表

令和6年2月27日(火)
13:30~
吉田高校朝日子ホール

舞台

ストーブ

議長

司会

鶴田委員

栗井委員

井出委員

萱沼委員

中村委員

渡邊委員

高村委員
(欠席)

村松委員

高保委員

梶原委員

正木委員

学校職員席

権太委員

ストーブ

ストーブ

出入口

令和5年度 第3回吉田高等学校学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和6年2月27日(火)
- 2 場 所 吉田高等学校朝日子ホール
- 3 時 間 13時30分より15時45分
- 4 参加委員 10名(敬称略)
鶴田 清司(会長)、中村 義仁、井出 智子、高保 裕樹、粟井 晶子、
萱沼 孝夫、渡邊 太郎、村松 悟、梶原 正彦、権太 正弘(校長)
- 5 次 第 司会 野澤 俊英(教頭)
 - (1) 開会の言葉(司会)
 - (2) 学校長あいさつ
 - (3) 学校運営協議会会長あいさつ
 - (4) 報告事項
 - 1 部活動関係(関東大会、全国大会)について (生徒会副主任 渡邊より)
 - 2 富士山学(総合的な探究の時間)について
 - ① 2年生研究発表会 (総合研修主任 村松より)
 - ② 1年生スペシャルチームの取組 (教頭 野澤より)
 - 3 四川省との交流会について (教頭 野澤より)
 - (5) 議事(議長 鶴田清司会長)
 - 1 第2回学校評価アンケート及び令和5年度学校評価報告書について (教頭 野澤より)
 - 2 校則の見直しについて (生徒主任 藤城より)
 - 3 普通科高習熟度クラスについて (教務主任 小佐野より)
 - 4 令和6年度学校運営基本方針の骨格について (校長 権太より)
 - 5 その他
 - (6) 連絡事項
 - 1 令和6年度学校運営協議会委員について (教頭 野澤より)
 - 2 令和6年度第1回学校運営協議会開催日について (教頭 野澤より)
4月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)のいずれかを予定
 - 3 その他
 - (7) 閉会の言葉(司会)

6 議事録

(1) 校長挨拶

2月になり雪の対応に追われることもあったが、令和5年度を振り返りながら令和6年度に向けての協議を行う時期となった。学校運営協議会委員の皆様にはこの1年間のご協力に感謝する。本日は多くの意見・提言をいただき、今後の学校経営に生かしていきたい。

(2) 学校運営協議会会長あいさつ

この4月からは富士吉田市内の全ての小学校で学校運営協議会が導入されるようだ。コミュニティースクールが確実に広がっており、この会の役割が非常に大きいと感じている。本日は忌憚のない御意見・御助言をお願いする。

(3) 報告事項

1 部活動関係（関東大会、全国大会）について

生徒会副主任の渡邊より、部活動実績について報告がされた。かごしま国体で優勝した陸上競技部選手の活躍が一層期待されること、全国大会でのスケート部の活躍、関東大会におけるウエイトリフティング部、スケート部、そして放送部の素晴らしい実績、さらに弓道部、ボート部等の活躍が報告された。

2 富士山学（総合的な探究の時間）について

① 2年生研究発表会について

総合研修主任の村松より、2月7日（水）に実施された「富士山学発表会」について報告がされた。2年生は地域の課題解決策を探るために、防災、子育て、文化、産業、観光・交通の5分野において研究テーマを設定しグループごとに探究活動に取り組んだ。今回の発表は、この各分野における選抜グループが行った。フードドライブについて研究したグループが最優秀チームに選ばれ、富士吉田市の「郷土愛醸成事業年度末報告会」でも発表した。

② 1年生スペシャルチームの取組について

教頭の野澤より、富士山学スペシャルチームの活動について報告がされた。生徒の有志が冬休みを利用して、富士吉田市内のNPO法人「かえる舎」のサポートを受けながら、市内の病院や道の駅、市役所で地域の課題解決の道筋を探った。この生徒たちは来年度の富士山学で、他の生徒のモデルとなることが期待されている。

3 四川省との交流会について

教頭の野澤より、四川省内江市第二中学校（日本の高校に相当）2年生と本校理数科1年生との間で3月18日（月）にオンライン交流会が開催されることが報告された。

（説明後）

質問・意見・助言・感想等はなし

(4) 議事

1 第2回学校評価アンケート及び令和5年度学校評価報告書について

教頭の野澤より、令和5年度1月に実施された学校評価アンケート結果及び令和5年度学校評価報告書について説明がされた。

吉高GPは7年目となる。学校行事の目標、教員の授業目標、そして生徒の2か月目標を、それぞれGPとリンクさせて設定を促した。学力向上については、観点別評価の研究、ICTの活用、公開授業の実践の3点を柱にして取り組み、学校評価アンケートからこれらの取組には向上が見られたことがわかった。特に、公開授業は教科会議の

時間に合わせて実施するようにした結果、参観者が増えて教科会議での研究協議が活発化した。また、今年度の校則協議会及び富士山学スペシャルグループの取組は、生徒の主体性を向上させる上で有効であり、来年度も継続していきたい。富士山学では、グループでの取組の意義を周囲に伝え、周囲を巻き込むことが大切であること、そして、働き方改革の推進については、超過勤勤務者の数は大幅に減少しているものの道半ばであるとされた。

これらに基づき、本年度の重点目標「生徒の知識活用能力を高める」、「生徒の主体性を高める」、「人とかかわりの中で生きていることを自覚させる」、「働き方改革を踏まえて業務の見直しを図る」の自己評価は、それぞれA、A、A、Bとした。

(説明後)

委員：教職員対象の学校評価アンケート10番「吉田高校では生徒に80年の伝統を受け継ぐ一人ひとりであることを様々な行事を通じて学ばせている」で、「あまりそう思わない」の回答が多い。どのようなところにその原因があると考えるか。

教頭：反省材料として考えなくてはならない。本校は地域を代表する伝統校である。本校の伝統とその歴史について、学校林の除草刈り作業のみならず、様々な場面で教職員が生徒に発信する必要があると思う。改善を図りたい。

委員：生徒に出す課題及びその評価について伺いたい。生徒の課題が多すぎるのではないか。つまり、生徒が自ら学ぶ時間が確保できているのか。これは吉田高校にとっての大きな課題だと思う。この学校評価とは別にこれについての生徒の声を聞いてみたい。このことを解決すると吉田高校全体の教育活動が改善できるのではないか。これは要望でもある。

委員：教職員の学校評価アンケートの働き方改革項目、25番「ワークライフバランスを図るために各自ができる具体的方策をとっている」であるが、ここまで改善された要因についてももう少し説明していただきたい。

教頭：達成率は十分ではないものの、7月の38.3%から63.9へ達成率が上昇した。業務分担の平準化、自動採点ソフトの活用等、小さな積み重ねが成果に繋がっているのではないかと考えている。

(質疑応答後)

第2回学校評価アンケート及び令和5年度学校評価報告書について承認された。

2 校則の見直しについて

生徒指導主事の藤城より校則の見直しについて、「これまでの校則協議会の流れ」「令和6年1月に決まった内容（靴下の規程緩和・ジャージ登校の認可・ウインドブレーカー年間着用の許可）」、「来年度引き続き検討する内容（校則におけるジェンダーギャップの解消・学校ジャージの自習室着用許可）」及び「今年度末新たに見直す内容

(スマートフォン利用の緩和・頭髪規程の緩和)」の説明がされた。

生徒たちが決めたルールを今後自らどのように守っていくのか、改善できるところは生徒たち自身で改善するといった視点が大切であり、来年度以降もこのことを踏まえながら議論を続けていく。また、来年度から新たに導入されることになったポロシャツは、5月に納入となる。

(説明後)

委員：生徒たちは自分たちで作上げた校則に誇りを持っているように感じる。生徒たちの立ち居振る舞いや服装に乱れを感じたことは今まで一度もない。来年度以降、念頭に置いていただきたいのは、頭髪については自主性が大事になってくるということである。今はツーブロックが流行しているが、今後新たなものが出てくるだろう。頭髪規程は生き物のようなものになっていき、柔軟な対応が求められる。「決まりは守るべきものだ」「駄目なものはダメ」というような中で私たちは育ってきたが、これでは今の時代には対応できないと思う。今回のように、合理的に決まりを構築していくことが非常に重要である。

生徒指導主任：規程ではなく、時代に相応しいマニュアルを提示して、柔軟な対応をしていきたい。

(質疑応答後)

校則の見直しについて承認された。

3 普通科高習熟度クラスについて

教務主任の小佐野より、普通科高習熟度クラスについて説明がされた。「今年度の高習熟度クラスの成果及び課題」「来年度に向けて意思統一すべきこと」「高習熟度クラスの運営に対する意見及び要望」「生徒の感想」について具体的に説明がされた。

(説明後)

委員：私たちの時代には文Ⅱクラスがあり、当時の高習熟度クラスに相当するのかもしれない。そのときの1年生は全てフラットなクラスであり、2年になるときに、理数クラス、普通クラス、そして文Ⅱクラスに分かれたと記憶する。この1年高習熟度クラスは、この理数クラスと文Ⅱクラスとミックスしたものと捉えてよろしいか。

教務主任：当時のものとは異なっている。当時のこれらのクラスは、異なった教育課程に基づき運営されていた。しかしながら、本校の高習熟度クラスは他の普通クラスと同じ教育課程で運営されており、1年から2年、そして2年から3年において生徒の移動が可能である。

委員：これについては知らなかった。既に今年度の1年生から運用が始まっているということか。

教務主任：そのとおりである。

委員：昨年度からこの習熟度クラスの編成については伺っている。進指連の事務局を担当しているとき、吉高へ入学する生徒が多様化して、入試の点数も様々であり、いろいろな特性・可能性を備えている生徒がいる。このために習熟度クラスを編成する必要があると前校長から伺った。本日の議論は、高習熟度クラスのことであり、他の生徒たちはどうあるべきかという視点があまりない。従って、高習熟度クラスを編成する意義はないのではないかと思われる。中学校で進路指導する上で、吉高における普通クラスや高習熟度クラスではどのような生徒を求めているのかということを変えて周知していく必要があるのではないか。それらを踏まえて生徒は進路を決定していく。2年次初めに、高習熟度クラスから普通クラスに入る生徒、そして高習熟度クラスに新たに入る生徒の精神的フォローについては確かに資料で述べられているが、他のクラスにおける指導も当然重要であろう。そのことに取り組むことにより、問題は解消されるのではないかと感じる。私の経緯の捉え方は少し違うかもしれないが、いわゆる高習熟のクラスを作るためのクラス編成ではなかったはずである。

教務主任：そのご理解で間違いないと思う。ご指摘いただいた視点もその通りである。資料にも載せているとおり、普通クラスの指導をどう行うかについては真摯に対応していくつもりである。

委員：親という立場で聞いていて少し心配になった。学校の中で普通クラスと高習熟度クラスに棲み分けがされてしまっている。親御さんからすると、「自分の子はどうなるか」という思いになり、普通クラスがおざなりになっているのではないかと捉えられる。どの子も一様に伸ばせるよう授業改善や教育技術の研鑽を積みながら、探究活動や課題解決型の授業などで改善を図っていくことが重要ではないか。

教務主任：今回の説明は、高習熟度クラスの方に偏ってしまっていたかもしれない。今後はご指摘されたような視点に基づき改善を図っていきたい。

教頭：昨年来の経緯を補足する。これは、高習熟度クラスに重点を置いて指導するというのではなく、全クラスを活性化していこうというコンセプトで動き出した。前校長は、学習で頑張る生徒、部活動の能力が高いが学力がもう一步の生徒など、普通科に入ってくる生徒が多様化してきているので、高習熟度クラスを作り、学力の高い生徒はそこに集めることにより、普通クラスの指導をより一層丁寧にしていくと説明した。今年度の7月にも中学校3学年主任の先生方にはそのように説明をさせていただいた。実際のところ、数学や英語の授業では高習熟度クラスではなく普通クラスでパート展開を行い丁寧な指導を行っている。普通クラスの方をおざなりにしているのではないことをご理解頂きた

い。

委員：吉田高校が総合選抜を外れて単独選抜になったとき、吉高に来る生徒はほぼ全員が国公立大学志望であった。このため、全ての生徒に対して同じ量の課題を課すといった指導が始まった。しかし、そのことで勉強があまり得意でない生徒の良さがむしろ失われてしまった。中には部活動まで上手くいかなくなり、不登校になる生徒もいた。フラットなクラス編成をしていた当時、「あなたはそこまで課題をする必要はない」と言える先生もいなかった。一人でも多くの生徒が生きいきと高校生活を送るにはどうしたら良いのかということが、当時の大きな課題だった。その問題を真剣に考えた結果がこの高習熟度クラスである。元気を失っていった生徒が増えてこのシステムの中に閉じ込めておくと、生徒のせつかくの資質が台無しになるという危機感から始まっている。時を同じくして大学入試も多様化してきた。私立大学は昨今、半数が推薦で入学している。推薦入学を通じて大学に入るという考え方も吉田高校にあってもいいのではないか。これも議論が始まった一つの要因である。そういう点からすると、普通クラスと高習熟度クラスの教育課程は異なっても良いと考える。逆に普通クラスの生徒は時間が多くあるはずである。高校時代にしか出来ない活動に取り組みながら、進学に向かわせるといった指導があっても良いのではないか。もう一つ気になるのは、高習熟度クラスの試験問題と普通クラス試験問題が一部の科目で異なっている点である。これは評定にそのまま影響を及ぼすのか。及ぼすとしたら、再来年の進路指導の時に問題となる恐れがある。昔、吉田高校が高習熟度クラスを編成していたとき、そのクラスから推薦で大学に進学するような生徒は存在せず、保護者も生徒もそのことをしっかりと理解できていた。しかし今、生徒や保護者にはこのことが伝わっているのだろうか。校内でしっかりと説明をしておく必要がある。

委員：生徒に対しては何らかの動機付けが必要だと感じている。刺激が無くてただ頑張れだけではいけない。フォローも大切だが、厳しい社会に出たときのために吉高は、保護者を信用して自信を持ってしっかりと指導をしてもらいたい。高習熟度クラスについては大賛成である。

委員：私も卒業生であり当時のクラス編成のことを思い出した。高習熟度クラスと普通クラスに分け、それぞれの教育課程は同じだが、授業や試験の内容は違うということがようやく理解できた。また、2年や3年になったときに推薦会議等で評価の仕方が異なるということの問題点がいろいろ出てくるのではということも感じている。ただ、簡単な試験にすると今の吉高生は点が取れてしまうのであろうとも思った。また、保護者はこのことについてよく理解しておく必要があると感じた。

議長：私の大学のことになるが、高校側から評定平均値が提出されてくる。驚くことに評定平均値 5.0 という数値が結構出てくる。多分吉高だと3ぐらいのレベルかもしれない。少し学力の低いとされる学校になると評定平均値 5.0 は結構あ

る。高校自体にもレベルがあるので、単なる受験生の評定平均値の高い低いでは判断できないことはわかっている。かなり慎重に評定平均値の中身を見ているのが実情である。今回の議論は、評定平均値が、この高習熟度クラスになると下がるのではないかという心配であるが、実は大学側もそこは良く分析している。今日のご意見を汲んで頂き、さらに検討を進め、より良い教育が出来るよう取り組んでいただきたい。

教務主任：教育課程の変更に伴い現2年生より新しい評価がはじまっており、多くの視点に基づき評価を行っている。高習熟度クラスだから評定が下がるということはないようにしている。また、大学への推薦制度についても校内の審査規程を見直す方向で議論を進めている。具体的なご意見があればまた寄せて頂き、検討していきたい。

議長：さらなるご意見があるようでしたら、事務局の方までご連絡よろしく申し上げます。

(質疑応答後)

高習熟度クラスについて承認された。

4 令和6年度学校運営基本方針の骨格について

校長の権太より、これまでの議論に対しての発言があり、その後、令和6年度学校運営基本方針の骨格について説明がされた。高習熟度クラスの課題の出題方法等は検証しなければならない。行事を通じて吉田高校の伝統を学ばせる重要性に関しては、コロナ感染で学校行事に制限がかかり、意識が薄れてきている面があったのではないかと感じている。このため、今年度の蒼風祭はコロナ以前の形を目指した。また、夏の野球応援では準々決勝で全校応援を実施した。このことで愛校心が生まれたと確信する。教員もそのことを感じてくれると素晴らしいと思う。富士登山強歩大会も実施できて良かった。完走率90%以上であった。このことも母校愛に繋がると認識している。働き方改革は、データでは改善の傾向にあるが、学校運営の観点からすると大きな課題となっており、力不足を感じている。来年度は学校行事を勤務時間内に収めるなど踏み込んでいく。高校教育は、義務教育とは異なる面がある。進路指導及び部活動指導の実績がものをいう。それが教員の負担に繋がっている。地域のリーダー校という本校の使命等を勘案すると、働き方改革を進めるのが難しい面がある。

来年度の学校運営基本方針の骨格は、今までの方向性を踏襲していきたい。吉高GPの8つの力を基盤にして、2030年を目指した令和の吉高教育を実践していく。社会の情勢が激変する中で生徒も変化し保護者も変化している。Z世代の子供たちには、理由づけが大切で、それが理解できれば力量を発揮する。授業の指導でも、なぜそれをやるのか、やることでどのような結果が生まれるかを分かりやすく説明することが大切である。未来を生き抜く生徒にはどのような学びが必要かを教員自ら考え、社会の動きに敏感になり意識改革を図ってもらいたいと考えている。

さて、来年度の山梨県教育の方向性は「子ども主体の学びへの転換」である。本校も探究活動を軸に置き、主体的学びを意識して指導していく。その一環として、山梨県知事顧問の藤原和博（リクルート初代フェロー・東京都初の民間人中学校長）を招致して探究活動の充実を図っていく。

また、本校は来年度から文科省の「DX ハイスクール」事業に取り組んでいく。1校あたりの予算上限は1千万円で、国予算100億円の事業であり、その趣旨は、デジタル人材の育成・理系人材の育成である。令和6年度に計画の準備を行い、令和7年度入学生から実施、令和8年度から完全実施となる。理数科では1年生の「理数探究」において、普通科では1年生の「総合的な探究の時間（富士山学）」などを使い、データサイエンス、AIの活用などのインプット系の学びを進めていく。2年生からは、プログラミング、アプリの開発などを探究する学びを計画している。

（説明後）

質問・意見・助言・感想等はなし

令和6年度学校運営基本方針の骨格について承認された。

5 その他

委員 吉田高校の教育活動を充実・発展させていくためにも、教員どうしが協働して働くことのできる職場環境の整備に校長も県教委も尽力してほしい。

（5）連絡事項

1 令和6年度学校運営協議会委員について

事務局が令和6年度学校運営協議会委員について説明

2 令和6年度第1回学校運営協議会開催日について

事務局が令和6年度第1回学校運営協議会開催日について説明

・開催日予定日は4月13日（土）、14日（日）、20日（土）、21日（日）のいずれか。

3 その他

なし

以上